

麦類赤かび病の防除の徹底について

本年産麦類の生育は、冬季の気温が低く経過していることから全般的にやや遅く推移しています。大麦の穂揃期は早いところでは4月の第5～6半旬頃になると予想されます。本病に対する薬剤散布は病原菌の感染前が効果的であり、感染後では効果が劣りますので、散布適期を逃さないよう万全を期して下さい。本病は開花期（大麦では穂揃期）から乳熟期に感染し、開花期以降に曇雨天が続く場合には発生が助長されます。

(1) 薬剤による防除法

薬剤散布は二条大麦では穂揃期とその7～10日後、小麦では開花最盛期頃（出穂7日後頃）とその7～10日後の2回行う。下表から薬剤を選定し、農薬使用基準に従って散布する。

(2) 防除上の参考事項

- ・大麦の穂揃期または小麦の開花最盛期から20日を過ぎると防除効果は低下する。
- ・二条大麦では2回目の薬剤散布の方が防除効果が高いので、1回目の散布を行っておらず、すでに大麦の穂揃期を過ぎている場合でも、できるだけ速やかに薬剤散布を行う。
- ・小麦を除く麦類では、トップジンM水和剤及び粉剤では出穂期以降1回しか使用できないので注意する。
- ・収穫後は速やかに乾燥する。

(3) 麦類赤かび病の防除薬剤

薬剤名	散布量・希釈倍率	農薬使用基準	
		時期	回数
サルファーゾル	400倍	-	-
コロナフロアブル	400倍	-	-
イオウフロアブル	400～800倍	-	-
トップジンM粉剤DL	4kg/10a	収穫14日前まで	小麦： 3回以内（出穂期以降は2回以内）、 麦類（小麦を除く）： 3回以内（出穂期以降は1回以内）
トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	収穫14日前まで（小麦） 収穫30日前まで〔麦類（小麦を除く）〕	
トップジンMゾル	1,000～1,500倍（小麦） 1,500倍〔麦類（小麦を除く）〕	収穫14日前まで	
トリフミン水和剤	1,000～2,000倍	収穫14日前まで	3回以内
トリフミン乳剤（小麦）	1,000倍	収穫 3日前まで	2回以内
シルバキュアフロアブル	2,000倍	収穫 7日前まで（小麦） 収穫14日前まで（大麦）	
ストロビーフロアブル	2,000～3,000倍	収穫14日前まで	3回以内
ベルコート水和剤（小麦）	1,000～2000倍	収穫21日前まで	3回以内（出穂期以降は1回以内）
ワークアップ粉剤DL	3kg/10a	収穫14日前まで	2回以内
ワークアップフロアブル	2,000倍	収穫14日前まで	2回以内

農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守するとともに、ドリフトに注意するなど、安全・適正に使用するようお願いします。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。